



9
3585
4

門口 9
號 3585
卷 4

小高



門 4 節
號 355
卷 4

外婦の訓目錄

- 上中下女の稱れり
- 小刃乃女の事 付リ下女仕の事
- 同慈照の事 付リ平生の事 付リ石仕拾目乃事
- 人に寄信せり
- 小娘女んをれり
- 同奥深さ事 付リんぬの事
- 上下女平生髪の変
- 平生立居振振れり 付リ衣裳の事
- 交冬着業んを乃事
- 長(髪)を剪る時の事 付リ肉三一通ば人の事
- 梅氣嫉妬れ事 付リ勝えの事

明治三十七年十一月五日
坪内雄哉氏寄贈



一 牙結くは女のす 付りよんるすの度

一 女他のの事付り存あ付れ事

一 女事のる書忍のす

一 極氣たろす

一 目を乃す

一 帯のはやれす 付り髪結す

一 氣糖乃度付り生地を悦とろす

一 仲たろす 付り盛のす 付り紅粉れ度

一 神作のす 付り子おくれす

一 妻とく度

一 世いもし乃す 付り女の家へ事とろす
大別に出て乃す

女婦の訓

あつおまゝに女婦れろあつさうしをん得
ぶおケ條とわおとやかい事をとしあ
まけふやうあゆふて強とくさういとこさ
もなる事なるといふと強うはしてそこにま
つらさうりもより女婦れま

楚あんどうといふは吏の家にゆさく姑ふり
わらたに内とほろゆくは新造と名けく新のら
たむばなり造ははらりるをなち又深窓とま
ふれまとのうらに居て園門よりそとへ出て
外にこれをりらあゆとつけたり——
とひもおさしんとを神の物とららたうとるを



見のちこありあきといふけりたふらちこ
中ゆり今倍に北の神人といふのあやまらりさ
とてし壽禄とてのひらういざれ簾中をよぬ
とてそのいふらに百つうけり大衆小身乃ちこ
と北原憲の神兒といはやなりまのぶられあひ
や大明の簾中を北原憲の神兒といはば
其家中れめこいおまにぶらうたと居や
のこいりおこしてとてせうけりふいごもま
中ゆりたてとさいゆらん北原憲の神兒といは武士れあ
いととふとびふ補うとてんがれいなんどぬ
はさうかりそれら下つこととてせりけり
奴僕のとてふまよとておりもせはる乃北原中

をよぶ補うんばとてなぞといみゆんたといふ
といふくまの家中よりいぬといふまの
の武士とてま家人のまねとやゆり女忍の補と
いみゆらばいぬといふゆらんおとこといふか
てとてうりいなりゆさどそれといみゆらん
らとてゆらん曹子見といふも簾中れぬ
うれたと曹子といふとておりまらうあや
のうらんの心とていふも曹子といふとて
の飲食とのりやうれあひいづの一人れ
飲食てつらまらかりせゆらうのたれ
こそ下知のうらうらいつまらり改めやも
改れいづらうやふのことやゆらも陽とて

の人のくわりかたは思ひなはゆりくやされば人の
の娘をみよとくゆせ給ふては飲食衣被等ら
をよくとさち男姑そのよちづわの考なるよ
後ことせ給ひ夫婦むつまじくははふおろこ
とんぶもまの上箱のくをまけくしんたはと
かておひいきまてつりよもたもてられぬら
なくあつふして外にむすめおつてまてに
くこの女かくてく又まがしん家へそもおひの
くつてとそこがくはあうさなう縁も又あつて
もあつてよまをれ人まてもまにけいづつら
なるいきもれもいやくしんも新造のよれゆえ
ゆりまのあつてくしり婦人のふもあつてよま

いと大事をなすむにゆりもやうに候にやり

先中ぐしころよりやをれ

いやくしん味増塩米まうくと人むすめあつて
ふげどの小ぬれ家まていづつらりあつてまて
あつていづれあつてあつて女あつてあつて
ふれぬれあつてあつて新造興りといふとら
ころあつていとおまよしんゆかひとらひて
くされくしぬてあつていひつらぬてあつて
しんあつてあつて又執事にいひて出入と
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

るにがしはらそりせ申きなりははれさくすは
人ぞのいとみづからくさしうしはははれさ
まじうしははれさくすははらそりせ申き
おまなりとのちたはらそりせ申きは
じらちもくさしうしははれさくすは
いふゆゑははまじななり

一わらわめれ興ていのおこりさくははらそりせ申き
あまのよきせははらそりせ申きははらそりせ申き
せくまのちらるるおまにまのちらるるははらそりせ申き
一とめも内にまらりさくすははらそりせ申き
まらりさくすははらそりせ申きははらそりせ申き
あまのよきせははらそりせ申きははらそりせ申き

ははらそりせ申きははらそりせ申き
あまのよきせははらそりせ申きははらそりせ申き
せくまのちらるるおまにまのちらるるははらそりせ申き

一帯とくも下女さくすははらそりせ申き
は食のこりさくすははらそりせ申き

一おま今日何の日あはははらそりせ申き
とれやあもまのちらるるおまにまのちらるるははらそりせ申き
つふ女もさくすははらそりせ申き
あまのよきせははらそりせ申きははらそりせ申き
おまが正月おまははらそりせ申き
あまのよきせははらそりせ申きははらそりせ申き
いふゆゑははまじななり

又ハ父母兄弟の意口ぶりに下してつちかへたり
 終ハよれぬなりと云ふにたもなほのまのまのたも
 のよりぬぢんれぢぢにこらでいふはつとつとつと
 一 ちい—まをいひしりぬ—つとつとつとつとつとつと
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 菜飯のよれらぬももたふんかたつとつとつとつと
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 の下女のこいせはつとつとつとつとつとつとつと
 けも又—はのちかたつとつとつとつとつとつと
 一 少男の意口ぬかむとつとつとつとつとつとつと
 せむにぬかむせむれぬせむれぬせむれぬせむれぬ
 のせむとぬかむせむれぬせむれぬせむれぬせむれぬ

一 平甚ハ菜のるともはつとつとつとつとつとつと
 いて終るも人ふるへぬは用ふあつとつとつと
 一 せんごうしりて終りてあそび終るも人ふるへぬ
 て出させぬとつとつとつとつとつとつとつとつと
 一 大にたつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 終るへ—世終るもつとつとつとつとつとつとつと
 かりされともなつとつとつとつとつとつとつと
 はおと終るもつとつとつとつとつとつとつとつと
 女つとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 たり—にやとつとつとつとつとつとつとつとつと
 中のつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 終るもつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと



くもくたきんしんおんまきしむひりもくもく
あふふふふふふふふふふふふふふふふふ

一 舞に舞(ま)いりてはゆり人ありてありせゆりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

ひよおつてはまきりてはまきりてはまきりて

じつとつてはまきりてはまきりてはまきりて

うらのれてはまきりてはまきりてはまきりて

とまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

まきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

はまきりてはまきりてはまきりてはまきりて

一 此をどに在つらうと女だといふ葉のむらりおひさ
 さを流るゆゑなりてわーらうづゝて風儀い中！
 こゝろーそれとちりりうらゝゝていさうーか
 ちくゆゑありきとぐたんとぶくはんまてりけ
 うらぶさかちり

私よももい大身小身やんどもねとてうももあ
 らなりやんどもおまが（見）中れおひらうらう女
 中房やうの人まもちげくおりにくに出て男
 にまうらわ流さすまどらうーれね性さ
 くからほおのころやうにはくれとあつてま
 ころらうさよとれくふてあうくかぶるあ

なりされがね悪おけ何れんまなかる色は其あ
 ら女婦の動向にちるだくまひ流るのさ
 こ女のそいおとばとくたてちづふ女ーとこ
 づーれをちとら女婦こまおおのさるー
 わーらうづゝていりらわー

一 此をどに在つらうと女だといふ葉のむらりおひさ
 さを流るゆゑなりてわーらうづゝて風儀い中！
 こゝろーそれとちりりうらゝゝていさうーか
 ちくゆゑありきとぐたんとぶくはんまてりけ
 うらぶさかちり

ゆわくしんせいのちかきくひのちかきかきしんせいに
とらしくちかきせはけらちかきかきしんせいに
むらびらきしんせいのちかきかきしんせいに
まじりしんせいのちかきかきしんせいに
しんせいのちかきかきしんせいに
よづしんせいのちかきかきしんせいに
ゆわくしんせいのちかきかきしんせいに
とらしくちかきせはけらちかきかきしんせいに

一月しんせいのちかきかきしんせいに
よづしんせいのちかきかきしんせいに
ゆわくしんせいのちかきかきしんせいに
とらしくちかきせはけらちかきかきしんせいに

かきしんせいのちかきかきしんせいに
よづしんせいのちかきかきしんせいに
ゆわくしんせいのちかきかきしんせいに
とらしくちかきせはけらちかきかきしんせいに

一 かのちかきかきしんせいに
よづしんせいのちかきかきしんせいに
ゆわくしんせいのちかきかきしんせいに
とらしくちかきせはけらちかきかきしんせいに
かきしんせいのちかきかきしんせいに
よづしんせいのちかきかきしんせいに
ゆわくしんせいのちかきかきしんせいに
とらしくちかきせはけらちかきかきしんせいに

一 命のものをいかにしうらむにたふさつにせしむ申しあり
うにいととをさうらむとあいにさうらむあり保氏おがり
よもは某の君をえだぬらうし保すことほらん
おらうとさうらむにうらをりけてさうらう
にみおをさうらむはうらむにうらむにうらむ
くげかちりとはうらむもり

いんぞとてまのつひにたもしほにのいひくち
さうらむとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと
さうらむとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと

かちり

一 帯れんとむらよとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと
さうらむとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと

廣しちのちとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと
まにぼやとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと
おがしとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと
かろい田舎女とさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと
いりおがしとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと
すうとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと

一 ころれとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと
はべしとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと
うのさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと
こわりたるけいんらうとさうらむとさうらむとさうらむと
おらうとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと
ひるいおとさうらむとさうらむとさうらむとさうらむと

いふ新とんぐじつづきすうやく

一 蘭世は油をもちびて化粧とききつゝいづゝか
なれりやあり化粧をせとくはつた領域のす
まりたる女のきもちに化粧じつづきわたり白髪はか
にわりこるしそはしつゝち整本をわごじく
なりとせとこふとぐー又蘭世又かゝる男
は化粧せんとくはつた領域のすまりと女
もはしつづきいづゝかきつゝいづゝか
男も又化粧をもちたりたりとくはつた領域
すまりたる女のきもちに化粧じつづきわたり
いづゝか男のは髪を梳かすといふものすはつち
一 油をつくる也といふはつた領域のすまりと

とあつてありぬぐてはつた領域のすまり
ありとつくるもたつた領域のすまり
よれと油といふはつた領域のすまり
一 美由ぶんのうな髪をけしつゝいづゝか
とつた領域のすまりとあつた領域のすまり
のおとやありはつた領域のすまりとあつた領域のすまり
城のむすめありとつた領域のすまりとあつた領域のすまり
とつた領域のすまりとあつた領域のすまりとあつた領域のすまり
なつた領域のすまりとあつた領域のすまりとあつた領域のすまり
てうな髪はつた領域のすまりとあつた領域のすまりとあつた領域のすまり
一 髪ををつくる也といふはつた領域のすまりとあつた領域のすまり
はつた領域のすまりとあつた領域のすまりとあつた領域のすまり

一 おいまいしるゝあゝ歎かたりを幸にうり居く女のおこ
 ちりひひよ何ようよとてくお物にうり居く女のおこ
 じやうもたぬおよにおつおん下らうもあつらうとて
 一 女二束の幸にむもくおれににりうとやゆり下
 らうのこゝろおばあおいまひーおごり長ーまよ
 家を引くーゆりおのうかにかに舞ーてうり居く女
 一 てもとのりおれお性よて同俗とらうーんこと
 こを縁ぢうーうぶくれ

一 由祖母ごみろのさまひー人あつおそれくの役人
 わつ大身お興家とて女おのげのふ食おのつなまう
 とん人おかおけくしてよれおれと何れれおさう
 おはにぬもせよとてあうと切おの女おのひつあも

下おれおれおらうーうらうーいせびとて女おの役けいむ
 めいおらうーれおのちやうおのちおめふおらうりどち
 とくくおあうくーおけすなり又い中のおおひやち
 おれおありお女とてさうーとあさうりおま又お
 のお理おりげお祖母おいおのうらうとておい由
 一 幼おらう人多つおおひてお有にそごらおひ
 人おさうとておれさうあうお減おもおらう
 おのさうお中おれとらうとておごー大身お材
 一 思おて大人お婦人おれおとあさうやまてと
 ておりまうーおおの髪おつおれおおづらうお
 これおと法おおーらおりーおをに居おひ
 一 女お人おらうとてお人おとばおお覺おれば

親の節をまじへて父賢かれば孝子が成るは
 まじ松栢のまじにちかれば平人と賢人のちか
 るにやゆり
 けまらぬ女婦はあまのこころをさへ
 のまじりてまじりにまじりて女婦のこころを
 忠とやまじりてまじりてまじりてまじりて
 娘わりかたりてまじりてまじりてまじりて
 のまじりてまじりてまじりてまじりて
 女婦のまじりてまじりてまじりてまじりて
 あつちかたりてまじりてまじりてまじりて
 ありす

松にわんごるに終の十原ふとられい中
 事とてあつちかたりてまじりてまじりて
 じいこのまじりてまじりてまじりて
 見えぬ

